海外トピックス

静岡県海外駐在員報告

2025. 10

静岡県企画部地域外交課

J-POP.ZIP 2025 会場で静岡県をＰＲ（ソウル・聖水）

東南アジア

シンガポールの総人口、過去最高の 611 万人

タイ市場の概況

中国

本県の食文化を上海メディアが取材！！静岡発のニュース映像を約１億人が視聴

広東国際旅游産業博覧会 2025 で「昇龍道（中部・北陸）」の広域観光をＰＲ

韓国

若者の街「聖水（ソンス）」の J-POP イベント会場で静岡県をＰＲ

2026 年、ソウルに路面電車が復活へ

台湾

セミナーで静岡の魅力をＰＲ　顔の見える関係構築でファン拡大へ

花蓮県の堰止湖が決壊、大規模洪水が発生

東南アジア駐在員報告

駐在員：村川　未帆

社会・時事

シンガポールの総人口、過去最高の 611 万人

シンガポール統計局は、本年６月末時点の総人口が、過去最高の 611 万人となり、前年から 1.2%増加したと発表した。

内訳は、国民（シンガポール国籍者）が約 366 万人（約６割）、永住権保持者が約 54 万人（約１割）、外国人居住者が約 190 万人（約３割）で、昨年から 2.7%増加した外国人居住者のうち、単純労働者（建設作業員や家政婦等）の増加が、総人口増加の主因となった。

シンガポールも日本同様に高齢化が進んでいるが、今回、国民に占める 65 歳以上の人の割合が初めて２割を超えた。一方、 国民の合計特殊出生率は、過去最低となった前年の 0.97 から改善せず、このままいくと、2030 年には出生数を死亡数が上回ると予想されている。

ちなみに、政府の少子化対策として、国民の出生にあたり、第１子、２子の場合はＳ＄11,000（約 126 万円）、第３子以降はＳ＄13,000（約 149 万円）が支給されるが、残念ながら功を奏していない。物価高のシンガポールでは、子どもの教育にも相当なお金がかかり、長期的な子育ての経済的負担を考えると、楽観的に出産する気にはなれないのも理解できる。

こうした国民の高齢化、出生率低迷により、シンガポールは労働力不足という大きな課題に直面している。そのため、外国人労働者への依存度は、今後一層高まる可能性がある。とはいえ、国内では摩擦も生じており、シンガポールの政治家にとっても、センシティブで難しい問題となっている。

経　済

タイ市場の概況

９月初旬、JETRO バンコク事務所や、タイへ進出する本県関連企業、日本博等を訪問・視察し、タイ市場の最新動向等について話を伺った。

タイは日系企業拠点数が東南アジア第１位で（外務省調査）、本県企業の展開数も自動車関連を中心に東南アジアで一番多い。在留邦人数も７万人以上と東南アジア最多で、タイ政府にモノが言えるくらい、タイ国内での日本人社会、日系企業のプレゼンスは高い。

親日家の多いタイでは、日本食レストランの数も年々増加しており、在留邦人や富裕層・アッパーミドル層が集中するバンコクは、相応の収益が期待できるマーケットとのことだった。日本博でも、多くのタイ人が日本食や日本文化を堪能しており、日本の人気の高さを実感した。当事務所も、タイ市場においてターゲットを絞り、県産品の展開に力を入れていきたい。

一方で、タイの経済成長は ASEAN の中でも低水準で推移しており、本年のＧＤＰ成長率は１.8%の見通しだ。家計債務（家計が抱える金融機関等からの借金）の対ＧＤＰ比が高止まりし、ローン審査が厳格化したことで、主要産業の一つである自動車販売台数の減少が続いており、日系自動車部品メーカーにも影響が出ている。米国の相互関税の影響も心配ではあったが、今回訪問した企業や JETRO に確認したところ、現時点で日系企業に直接的な影響はないという。今後も、タイに進出する本県関係企業や JETRO と密に連携を取り、県内企業にとって有益な情報の収集に努めつつ、タイ市場への展開に関心のある企業を支援していきたい。

中国駐在員報告

駐在員：石川　祐介

社会・時事

本県の食文化を上海メディアが取材!!静岡発のニュース映像を約１億人が視聴

９月７日、中国最大級のメディアであるＳＭＧ（上海メディアグループ）のテレビ番組『中日新視界』の取材クルーが県内に到着した。同番組は「中国の日本ファン向け日本語テレビ番組」（毎週土曜日 12:30～13:00 放送）で、視聴率 11～12％を誇る人気番組だ。

上海事務所では、昨年から同番組とタイアップして「富士山」や「プラモデル」をテーマに約５分間のコーナーで本県の魅力を紹介してきたが、今回は、同番組で初の試みとなる「30 分まるごと静岡県」の特番を制作するため、茶・みかん・わさび・タカアシガニなど本県の特色ある食文化を求めて県内を巡った。

また、滞在中には日中の相互理解を深めようと城南静岡中学校において「上海文化セミナー」を開催。３年生 15 名が、「小籠包の正しい食べ方」や「中国結びの製作体験」など、現地の文化を学んだ。

この番組は 10 月下旬に放送される予定だが、同校での上海文化セミナーの様子は一足先に上海発の全国ニュース（東方衛視）でも取り上げられ、約１億人（中国人口の約７％）が視聴し大きな反響を呼んだ。アーカイブ映像を視聴できるので、生徒の楽しそうな様子を是非ご覧頂きたい。

動画はこちら

経　済

広東国際旅游産業博覧会 2025 で「昇龍道（中部・北陸）」の広域観光をＰＲ

９月 12～14 日、広東省・広州市で広東国際旅游産業博覧会 2025 が開催され、３日間で 15 万人の来場者が訪れた。

広州市は、北京・上海・深圳に次ぐ中国第４の都市と評され、自動車産業の要所であるため日系企業の進出も多い地域だ。世界 50 カ国・地域から出展者が集まる中、本県は愛知県、長野県、福井県、石川県と「昇龍道」として共同出展し、来場者に中部・北陸地域の広域観光をＰＲした。

こうした広域プロモーションは来場者にも興味深いようで、会場では、「域内の縦断ルート」や「空港の所在」など質問が寄せられた。普段の観光展示会では、いかに静岡県を目立たせるかが重要だが、こうした線・面でのセールスは、東京・大阪への観光客の集中を脱し、地方への旅行需要を喚起するには効果的な方法だと改めて気づかされた出展であった。

韓国駐在員報告

駐在員：石ヶ谷　彰英

行　政

若者の街「聖水（ソンス）」のＪ-ＰＯＰイベント会場で静岡県をＰＲ

９月 19 日から 21 日までの３日間、ユニバーサルミュージック合同会社の主催による日本のミュージックカルチャーをテーマとしたイベント「J-POP.ZIP 2025」の会場で、本県の観光ＰＲを行った。

３日間で７千人近くを集めたこのイベントへの来場者のうち、20 代が約７割を占めるという、これまででは経験したことがないような環境でのブース出展となった。

会場の所在地はソウル市城東（ソンドン）区聖水地区。ソウルで今、最も若者に人気があると言われているエリアである。

かつては町工場や自動車整備業が集まっていた聖水は、この十数年間で若者の街に急激な変貌を遂げた。産業構造の変化や郊外移転などで空き家になった工場や倉庫の跡に、雰囲気のあるカフェやレストラン、セレクトショップが次々と開店し、日本を含む多くの外国人が訪れる華やかな観光スポットになっている。

もともと靴の街として有名でシューズショップや皮革製品のギャラリーなどがあったことからファッション系の新規出店がしやすかったという見方や、近隣に位置する有名大学の学生をキャンパス周辺へとつなぎ止めるために若い人向けのニュースタイルなカフェを始める経営者がいたなど、「聖水の変貌」には様々な理由が挙げられるが、「街づくり」を考えるうえで興味深い事例研究の対象であることは言うまでもないだろう。

日本のカルチャーに興味を持つ来場者が多いためか、観光パンフレットを掴んでバッグに入れながら「次は是非静岡に行きますよ」と言ってくれたり、「静岡駅前に宿を取って、県内あちこちを巡るので静岡で登録台数が多いタクシーアプリを教えて」と具体的な質問をしてくれたりと、本県への関心の高さを強く感じる機会となった。

このような若者たちにとって静岡旅行が良い思い出となることを心から祈って止まない。

社会・時事

2026 年、ソウルに路面電車が復活へ

普段は地下鉄で通勤するのだが、訪問先から帰る際は市内バスを使うこともある。

個性的な建造物などを眺めながらの移動は楽しみの一つだが、バスの車窓から、ついつい凝視してしまう光景がある。ソウル歴史博物館前の通り沿いに置かれている路面電車だ。

ソウル市電は全線廃止されていて、現在保存されているのは２両のみ。そのうち１両がこの博物館前の車両で、1930 年代に名古屋で製造され1968 年 11 月の廃線まで走っていた。

電車の外側から忘れ物を届けようとする母親と、不安げに窓の外を眺める車内の学生の姿を表わしたアート作品が展示されていて、古き時代の郷愁を誘っている。

1899 年の開通から約 70 年間にわたって、主要な公共交通として活躍していたソウルの路面電車も、経済成長の過程で御多分に漏れず、バスと地下鉄に取って代られてしまった。

そんな路面電車だが、実はソウルとその近郊で復活することになっている。運行区間は、ソウル地下鉄５号線馬川（マチョン）と地下鉄８号線の福井（ポクチョン）間を結ぶ本線と支線の計 5.4 キロ。路線名は慰礼（ウィレ）線で 2026 年９月に開業予定だ。

慰礼地区のニュータウンにおける交通渋滞解消に向けた取組だが、従来の路面電車ではお馴染みの架線からの集電装置（ポールやビューゲル等）が無い車両が導入されるという。

今後、ニュータウンでの走行で利便性や環境への効果が確認できた場合は、ソウル中心市街地への導入も検討される、とのことだ。

ソウル市内の主な通りでは、市内バスが中央分離帯を挟んだ専用レーンを走っている。この専用レーンが電車の軌道になった風景をいつか見る日が来るかもしれない。

台湾駐在員報告

駐在員：市川　美奈子

行　政

セミナーで静岡の魅力をＰＲ　顔の見える関係構築でファン拡大へ

台湾では個人観光客向けのＰＲとして、日本では馴染みの薄い手法がよく使われる。それは「セミナー」という手法だ。旅慣れた台湾人は、一般的な観光情報は既にリサーチ済み。豊富な知識を持つプロが、周りの人たちが知らないような楽しみ方を伝授するという「特別感」に対するニーズが非常に強い。このようなニーズをふまえ、弊所でもさまざまなテーマでセミナーを開催している。

弊所では９月 13 日、台湾西部の離島・澎湖県で静岡観光セミナーを開催した。「トンボロ現象」が縁で澎湖県との友好交流提携書に調印している西伊豆町にも同セミナーへの参加を呼びかけたところ、副町長が澎湖県にお越しくださり、西伊豆町を含めた静岡県全般の魅力を澎湖県の人たちに大いにアピールすることができた。

９月 21 日には、沖縄県台北事務所およびＡＮＡ台湾と合同で、「静岡×沖縄×ＡＮＡ合同セミナー」を開催した。これは、昨年度弊所が沖縄県台北事務所に提案して開催した合同セミナーが盛況だったことを受けて、今年も開催したものだ。今年は、静岡と那覇を結ぶ路線を運航する唯一の航空会社であるＡＮＡにも参加を呼びかけ、静岡×沖縄×ＡＮＡの３者合同セミナーとすることができた。セミナーには 179 人が参加し、今年も活況を呈していた。

弊所からは「静岡　秋・冬の旅」と題して、紅葉や冬の花の名所を中心とした紹介を行った。ＡＮＡからは、台北⇔羽田の航空券に 4,000 元（約２万円）を追加するだけで「台北→羽田→新千歳→静岡→沖縄→羽田」という複数都市周遊型の航空券を購入できる旨の紹介があり、参加者からは驚きと喜びの声が上がっていた。

弊所が主催するセミナーには、これまでに何度も参加してくれている人がたくさんいる。ＳＮＳなどでのウェブマーケティングに加え、このような「顔の見えるＰＲ」も継続し、台湾における静岡ファンを今後も増やしていきたい。

【写真１枚目：澎湖県での静岡観光セミナー　２枚目：静岡×沖縄×ＡＮＡ合同セミナー】

社会・時事

花蓮県の堰止湖が決壊、大規模洪水が発生

９月 23 日、花蓮県の堰止湖で大規模な氾濫・決壊が発生し、下流にあった光復郷などが壊滅的な被害を受けている。この堰止湖は昨年４月３日の地震で形成されたもので、今年７月からの台風によって貯水量が増加した結果、堰止湖から溢れた水が土砂を含んだ大洪水となって集落に流れていってしまった。洪水発生時の水量は 1,540 万トンだったと言われている。

今回の災害を受けて、台湾の福利衛生部が募金活動を発起している。台湾元で５億元（約 25 億円）を集めて災害救助や震災復興に充てたいとのこと。１日も早い復旧を祈りたい。

（参考）義援金受取口座一覧　https://www.rti.org.tw/jp/news?uid=3&pid=166291

静岡県
海外駐在員事務所

●東南アジア駐在員事務所（シンガポール）

住所	12 Eu Tong Sen Street, #04-168 The Central(SOHO2), Singapore 059819		
電話	+65-6221-0432	FAX	+65-6221-0477
URL	http://shizuoka.sg/		
E-mail	fujinokuni@shizuoka.sg		

●中国駐在員事務所（上海）

住所	上海市長寧区延安西路 2201 号　国際貿易中心 2611 室		
電話	+86-21-6275-0909	FAX	+86-21-6275-8856
URL	http://www.shizuokash.com		
E-mail	ilfjs@shizuokash.com		

●韓国駐在員事務所（ソウル）

住所	韓国ソウル特別市中区武橋路 21　The Exchange Seoul ビル 6 階		
電話	+82-2-777-1835	FAX	+82-2-777-1837
URL	http://shizuokaseoul.com/ https://blog.naver.com/goshizuoka		
E-mail	shizuoka@shizuokaseoul.com		

●台湾駐在員事務所（台北）

住所	台北市中山区南京東路二段 137 号　連邦商業ビル 13 階		
電話	+886-2-2508-1515	FAX	+886-2-2503-5303
URL	http://www.shizuoka.org.tw/		
E-mail	shizuoka.tw@gmail.com		

＜日本での連絡先＞

静岡県 企画部 地域外交課
住所：静岡市葵区追手町９－６
電話：054-221-2572　ＦＡＸ：054-221-2542
E-mail：kokusai@pref.shizuoka.lg.jp